

米空母母港化 49 周年抗議！原子力空母ロナルド・レーガンの配備撤回を 求める 10・1 全国集会アピール(案)



米海軍が横須賀基地に空母を配備したのは 1973 年、当時、数年程度と言われた「空母の母港」は 49 年が経過し、来年には何と「母港化 50 年」を迎えることになります。2008 年からは配備艦が原子力空母となり、現在は空母ロナルド・レーガンが配備されています。

空母を中心に最新鋭の BMD (弾道ミサイル防衛) 対応艦を含め、米海軍の能力は極めて高く、世界有数の巨大軍港・出撃基地となっています。

米国外で「唯一の空母の母港」は永続化した状況で、空母原子炉の危険性は依然として隠ぺいされたまま、住民の安全を置き去りにして出入港が繰り返されています。

安保法制の成立を背景とする海上自衛隊の著しい増強によって、日米の軍事一体化がより現実のものとなりました。横須賀基地配備の海自護衛艦が相次いで中東へと派遣され、米海軍と共に行動しています。成立後 70 年以上経ても、旧軍港市転換法(軍転法)が掲げた理念、平和産業港湾都市への転換は遥か彼方へ遠のいてしまいました。

長期化した新型コロナウイルス禍で、私たちの反戦・平和運動も大きな制約を受け、行動の中止や規模の縮小を余儀なくされてきました。

しかしその間にも、横須賀を巡る情勢は深刻化の一途をたどっています。米海軍のイージス艦は昨年 4 艦が新たに配備され、従来の配備態勢が復活しました。昨年 8 月末には米空母カールビンソンが突如寄港し、9 月初めには英空母クイーン・エリザベスとその打撃群が強行入港しました。更に、今年 5 月には米空母エブラハム・リンカーンも入港し、空母の入港が常態化しつつあります。国はもとより横須賀市当局もこの事態に沈黙したままです。

海上自衛隊の関係では、その主力護衛艦「いずも」の本格空母への改修が進行し、改修後には米軍ステルス戦闘機 F35B の搭載・使用、自衛隊同型機の配備が計画されています。また、護衛艦「まや」をはじめとする先制攻撃型の自衛艦隊が形成されています。

このような事態を諦めずに打開しなければなりません。長年にわたり艦載機の爆音解消を求めてきた厚木基地周辺での闘い、米空軍横田基地や陸自木更津駐屯地を拠点とするオスプレイの低空飛行や訓練反対など県内、首都圏の仲間との連携を強め、基地の押し付け、暴力的な弾圧・蛮行と不屈に対峙する沖縄の闘いとも共闘して全国的な運動へ発展させましょう。

困難な状況下、私たちは、ここ横須賀ヴェルニー公園に結集しました。

改めて、原子力空母ロナルド・レーガンの母港撤回、「安保関連法」の廃止、「敵基地攻撃力」などの自衛隊強化反対を確認し、「戦争推進政策」に断固、立ち向かいましょう。

2022年10月1日
集会参加一同